

事例

1

2011年11月

## 10ヵ月の入院生活、退院後は旅行



緊急入院した2月、診断は心臓の病気。  
あとなないと医師から告げられていた。  
病院のベッドの上で過ごす日々。  
壁もカーテンも枕も布団も真っ白。  
真っ白の中に、一本の管が流れている。  
酸素吸入だ。

旅行に連れて行ってあげたい。

わざわざ愛知県から電車を乗り継いで神戸  
まで来てくださった娘さん。

電話一本で私達が足を運ぶのに…。

それから慌ただしく動く日々。

入院している病院のドクターとの面会。

家族を交えて、色々と詳しい話をお伺いし  
た。急いで準備しながらも、万全の体制で臨む  
旅になった。

当日、玄関先でまだかまだかと待ってくだ  
さっている。

早速、片道160キロの旅が始まる。

リクライニング車いすで出発し、向かった  
先は伊勢のホテル。

無事に到着しゆったりと過ごす中で、「何年  
ぶりだろう」と家族とのお食事を楽しむ。

体に負担をかけない旅行行程。

でも、体調が良く気分次第で足を運んでみ  
たいと思えば行けるのが、しゃらく旅倶楽部  
のオーダーメイド旅行。

予定にはない伊勢神宮に足を運ぶ。

紅葉の中、文化遺産を楽しみ帰路につく。  
「次は新緑の季節にお願いね！」とお客様。そ  
の時は是非またお任せください！



しゃらく旅俱樂部  
小倉 孫

この度は旅行計画書を送りいただき有難うございました。母はスーパリーの旅行をとっても楽しみにして心待ちにして体調も良く、退院後十七日(水)、始めてディサービスへ去那り一日起きて過ごしたそうです。

職員の話では「旅行に行くから体力をつけなさい」と言われて嬉しそうです。耳の治療も本日(十八日)で終了しました。

補聴器も両耳装着で出発出来そうです。余命いくばくと宣告された方も楽しい目的を持って過ごすすばらしいさを感じています。

この喜びが最後迄続きます様に祈ります。お力添えどうぞ宜しくお願いいたします。

## 1日目

時間

行程

|       |                                  |
|-------|----------------------------------|
| 12:00 | ヘルパーがご自宅にお迎え                     |
| 12:10 | 介護タクシーがご自宅に到着                    |
| 12:20 | 介護タクシーでご自宅を出発<br>(必要に応じてSA等でご休憩) |
| 15:00 | 扇芳閣に到着<br>お部屋にチェックイン             |
| 16:30 | 休憩                               |
| 17:30 | 入浴                               |
| 18:30 | 夕食                               |
| 21:00 | 就寝                               |

## 2日目

時間

行程

|       |                    |
|-------|--------------------|
|       | 起床                 |
| 8:00  | 朝食                 |
| 10:00 | 休憩<br>準備<br>扇芳閣を出発 |
| 12:30 | ご自宅に到着             |
| 12:45 | エスコートヘルパーが帰社       |

## その他のメモ

介護度

未認定

年齢

90歳

出発地

愛知県尾張旭市

行先

三重県伊勢

同行

エスコートヘルパー 1名

## 担当者からのコメント

初めてお会いした時、お伺いしていた重い病気のイメージが一瞬で変わりました。病院のベッドの上で新聞を読んでいる姿。目が合うなり、「よろしく願います」と言って頂け、私を待っていていたんだと嬉しく思ったのがお客様の第一印象です。次は新緑の春です。91回目に迎える春の姿は、どんな色をしているのでしょうか。

